



黒須としたか

活動レポート

田園海浜文化都市宣言

CROSS通信

事務所：大網白里町大網33-8サンモア内 TEL0475-73-4126（ナミヨイフロ）

自宅：大網白里町仏島28-8 TEL0475-73-8615 FAX0475-70-2666

http://www.geocities.jp/ooamicross/ Eメール: ooamicross@ybb.ne.jp

子ども医療費助成拡大を 4月から開始へ予算修正！

物は言いよう

物事には言いようがあるものだ。年度末の新聞記事や折込チラシ、公報等でご存じの方もおられると思いますが、この4月からようやく中学3年生までの子ども医療費が入院、通院、調剤全てに公費助成を受けられるようになりました。黒須らが議会で求め続け、ようやく実現。ようやく他市町村なみになり、感慨ひとしおです。

新中学生の皆さんの通院・調剤費は7月まで償還払い方式（後日役所に請求する）なので医療機関や薬局の領収書を保管して下さい。

さて、金坂市長はさも自分の功績のように、新聞インタビューや公報等で宣伝していますがこれまでの経緯はどうだったのでしょうか。

これまでの経緯

金坂町長（当時）就任以前は小学校3年生までの子ども医療費のみが無料でした。中学3年生までの医療費無料を公約の柱にしていた金坂市長誕生で多くの小中学生の子を持つ親たち住民が期待をしたはずですが、それが1年目も2年目も変わらず、3年目になってようやく範囲を拡大したものの、保護者一部負担で、通院・調剤は小学校6年生までの半分の引き上げに過ぎなかった。しかも4月からではなく8月からという役場の事務処理の都合を優先した。当時の小学校6年生以上の親は大きな

期待を抱いたはずだがほとんど助成を受けられなかった。4・5年生（今の中学2・3年生）も限定的なものになった。

議会から公約違反と追及

議会からは公約違反だと厳しく追及をうけたが、千葉県の負担分が中学3年生まで拡大していないことを理由に逃げていた。金坂町長（当時）の公約に「千葉県の拡大が前提」などとどこにも書いていない。

金坂市長はかたくなに拒否

今回の新予算は金坂市長にとって4回目、最後の予算案提出だった。自分の公約の帳尻を合わせるかのよう（次回選挙までわずか4カ月前の）8月からの公費助成拡大を提案してきた。やらないよりはまだましですが、せめて4月から始めると予算委員会で迫ったものの金坂市長は4月からはできないと拒否した。担当職員も技術的に可能と示唆していたし、財政課長も予算の修正がなくても前年度残金で可能と言っていたが、子育て支援課長（当時）と金坂市長は、「市民が混乱する」と市民のせいにして頑なに拒否した。

予算修正動議

そこで黒須が市民の会の仲間らと相談して、予備費から7月までの子ども医療費助成拡大部分を捻出するように予算修正動議を提出した。予算委員会では意見は分かれたものの、同僚議員の「新しい制度はどち

らも混乱するのだし、8月より4月の方が市民の利益が大きい」との一言で流れは決まり、議会は総員賛成で修正案を通した。

子育て支援に消極的

金坂町長（当時）は、就任早々の予算で「出産祝い金」を大幅縮小した。前回の町長選で黒須が議会にいないときに決められてしまった。さらに翌年には変えたばかりの「出産祝い金」廃止を提案してきた。この時は、黒須の動議で予算修正をして「子育て祝い金」を復活させた。このように金坂市長は就任当時から子育て支援に積極的か疑問だ。

無策の本市

子育て支援は「医療費助成」だけではない。日本が人口減少社会に突入したなかで、いかにソフトランディングしていくのかほとんど無策の本市にとって今後は1年たりとも無駄にはできない。

本音のコラム

談合に甘い首長たち2

金坂市長らの申し入れで談合企業の処分軽減を千葉県森田知事が決定したのに続き、大網白里市でも処分軽減を決めた。理由がふるっている。千葉県が軽減したのに市がそれ以上の処分はできないと。おかしい話だ。県には県の事情があり、市には市の判断があつてしかるべきだ。談合企業は笑いが止まらない。